

無教会とは？（無教会全国集会での開会の挨拶の中で）

溝口 正 1993年11月

第一は、第一高等学校教育勅語不敬事件が大事である。すべての教職員が勅語に深々と再敬礼する中で、内村ただ一人、礼拝をしなかった。それはなぜか？ 内村のこの行動は偶像礼拝を拒否する純粋な唯一神信仰からでたものである。

第二は、不敬事件の結果、内村は国民から不謹慎、国賊として迫害された。理解してくれると思っていた教会すらも、内村を敬遠したので、日本国中、枕するところがなくなり、文字通り無教会となった。そこで内村はどうか。彼は天地の創造主、世界の支配者なるキリストの父なる神のふところに駆け込んだ。そこ霊とまことをもってする純粋な神礼拝、霊的礼拝を実体験された。同時に、教会の sacrament を必要としない十字架の贖罪と復活を信ずる信仰のみの福音に徹することができた。すなわち、無教会となったおかげで、純粋な神礼拝。信仰のみの福音を生命とするまでに体験された。これが無教会の原点である。

第三は、マルチン・ルターは信仰のみを宣言し宗教改革の狼煙（のろし）を上げたが、洗礼と聖餐式の sacrament を残し、さらにカトリックとは別の教会制度や組織を作り上げてしまった。こうして、プロテスタントも信仰のみでなくなり、宗教改革は不徹底に終わった。内村は教会の外に放り出されることにより、制度も組織も sacrament（礼典）もないところで信仰のみに徹することができた。ここにルターのできなかつた宗教改革の徹底、第二の宗教改革と言われる所以がある。

第四は、内村没後63年になるが、我々無教会の信仰に生きる者の歴史的使命は、内村の実体験した純粋な唯一神信仰、霊的神礼拝、罪のゆるしの十字架・復活の信仰に生かされることを通して、この世のたたかいこれを隣人に伝えて宗教改革をひたひたと推進していくことである。以上。

（1993年11月）（溝口正）